

3

総合科学から見る人間

本講義では、歴史学、心理学、スポーツ科学、言語学といった学問分野の話を聞いていただきながら、人間が何をどう考えて、そして表現するのかという点を総合科学的に考えてみたいと思います。そこから、私たち自身の感性や行動について理解を深め、人間のありかたを再検討してみてください。

会場	対面：広島大学東広島キャンパス 総合科学部 J305講義室 ※コロナの感染状況により中止にすることがあります。
時間	① 13:00～14:30 ② 14:40～16:10
定員	対面：30名
対象	どなたでも
受講料	無料
申込方法	郵送・Web
申込期限	一次申込締切 9/9（金） ※定員に達しなければ10/13（木）（必着）まで先着順で受付

私たちの歴史認識

第1回
10/22（土）
13:00～14:30

講師：人間社会科学研究科 准教授 河合 信晴

歴史学は過去に生じたことの意味を皆さんに伝える学問分野です。ただ、ある事件についての解釈が異なるということがままあります。くわえて、現在では何が真実なのかをめぐる対立が生じ、共通認識さえもできない状況になりつつあります。特に私の研究分野であるドイツ近現代史は、ナチ体制の評価に見られるように一般社会で論争になることがよくあります。本講義では、何が真実なのか、事実なのかという点について考えるのではなく、私たちが見たいものを見ようとする生き物であることを念頭において、どうして見たいものを見て、主張するのか、その原因はどこにあるのかについて考えてみたいと思います。

不確実を生きる

第2回
10/22（土）
14:40～16:10

講師：人間社会科学研究科 准教授 杉浦 義典

私たちの生きている世界は確実にわからないことに満ちています。科学研究の成果も、詳しく言えば「治療の効果がなかったら、このようなデータがえられる可能性は5%以下である」といったものが多いのです。このような不確かさに、古来から智慧ある人々はどのように向き合ってきたのかを考えながら、不確かだからこそその幸せという可能性を探ってみたいとおもいます。

健康寿命を延ばす**講師：人間社会科学研究科 准教授 田中 亮****第3回
10/29 (土)**

13:00~14:30

日本人の平均寿命は年々伸びており、男性81.64歳、女性87.74歳となっています。一方、健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）は、男性72.68歳、女性74.79歳となっており、いかに健康的に生活できる期間を延ばすかに関心が高まっています。本講義では、健康寿命を縮める要因の一つとして注目されている「ロコモティブシンドローム」を解説し、その対策を紹介します。

中国語とその方言 — ことばと人とのかかわり**講師：人間社会科学研究科 准教授 大嶋 広美****第4回
10/29 (土)**

14:40~16:10

隣国の中国の言語はどのようなことばでしょうか。中国には、私たちが普段耳にする中国語（共通語）の他に多くの言語と方言が存在します。各方言にはそれぞれ特有の音韻的特徴があり、地域によっては意思疎通が不可能なほどです。この講座では、中国語と中国各地の方言が言語学的な面からどのように違っているかを考えます。方言の差異は、単に言葉の変容だけでなく、そのことばを使用している人々の行動、文化、環境などの要因も作用しています。隣国のことばに対する認識を深めると同時に、ことばのしくみとことばと人との関係について一緒に検討します。

**講座内容に関する
お問い合わせ先****総合科学系支援室（学士課程担当）**

電話：082-424-7919

メール souka-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp